



京都市学校歴史 博物館だより

VOL.
13

平成18年3月発行



正門、石砌は国書館文化財

企画展 「教壇に立つ芸術家たち」

～京都市立学校所蔵品から銅駝美工高まで～

学校歴史博物館は、明治2年に創設された日本で最初の学区制小学校である番組小学校を中心に、京都の教育の歴史と学校の創設・経営に尽くされた先人の情熱を、後世に伝える他に類を見ない施設です。教科書・教具などの歴史資料とともに、学校ゆかりの作家や地元の方から母校などに寄贈された美術工芸品を展示しています。

今回の企画展は、京都市立学校所蔵の作家でもあった元教員の作品と、創立126年の長い伝統を持つ銅駝美工高の現職教員の作品で構成し、京都の美術工芸の発展のため尽くしてこられた新日の指導者の作品を展示することにより、学校が「ものづくりのまち京都」の一翼を担ってきた歴史を、改めて認識できる場になればと考えています。

1 開催期間

平成18年4月22日(土)

～7月17日(月・祝)

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 水曜日

注：5月3日(水)は開館、5月6日(土)は休館

2 開催場所

京都市学校歴史博物館 TEL 344-1305

下京区御幸町通仏光寺下る橋町437(元開智小学校)

3 展示内容

(1) 京都市立学校所蔵作品

- ・「青い鳥」橋田二郎 元 教業小学校蔵
- ・「秋日」上原 卓 元 富有小学校蔵
- ・「松図」神坂雪佳 鷹峯小学校蔵
- ・「仔鹿」幸野豊一 嵯峨小学校蔵 ほか

(2) 美工126年の歴史脈々～京都市立銅駝美工 工芸高等学校の現在

日本画・洋画・彫刻・デザイン・漆芸・陶芸
ファッションアート・テキスタイルアート

〈参考〉総展示数約60点(展示替えを含む)



「青い鳥」

橋田二郎 元 教業小学校蔵



「松図」

神坂雪佳 鷹峯小学校蔵



「秋日」上原 卓 元 富有小学校蔵



「仔鹿」幸野豊一 嵯峨小学校蔵

特別対談

「近代日本画のあゆみ」

京都市学校歴史博物館では、平成17年10月29日(土)午後2時から、榊原吉郎京都市立芸術大学名誉教授と上村淳之当館館長による特別対談「近代日本画のあゆみ」を開催しました。

まず最初に、榊原先生に、美術史の視点から、近代日本画の歩みについて講演していただきました。特に、京都画壇に及ぼした西洋画の影響、京都府画学校や国画創作協会の設立といった京都の美術史にとってのエポックメイキングとなった出来事を中心に、狩野永徳・幸野楳嶺・竹内栖鳳・都路華香・村上華岳・土田麦僊・入江波光・榊原紫峰・小野竹喬・山口華揚などの作品をスライドで観ながら、江戸期から昭和までの近代日本画の歩みをわかりやすく解説していただきました。



その後、日本画家であり京都市立芸術大学名誉教授でもある上村館長が、作家の立場から、近代日本画の歩みを分析しました。「写生を離れて絵をかくことはできない。」「具体的なものを象徴的な表現にすることが日本画の軸足。」「絵というものは、最初にイメージがあって、そのイメージを具現化していくものである。」等の観点から、円山応挙・竹内栖鳳・橋本閑雪・菱田春草・上村松園・土田麦僊・村上華岳・福田平八郎・速水御舟・徳岡神泉・上村松篁及び館長自身の作品などを例に、作品からみた日本画の変遷や日本画と西洋画の違いなどについて話を展開しました。

最後に、榊原先生の「三次元や余白について、西洋人の考え方と日本画の世界では大きく違う。」との意見を受けて、上村館長が「自分の夢想する世界を具現化することが芸術であり、イメージを温めて創作し、象徴的な世界を表現することが日本画の本質である。」とまとめをして、特別対談は約1時間30分で終了しました。

特別対談には207名の方が出席されました。



昔の学校あれこれ

第六回

机と椅子

現在は教室に児童生徒のための机と椅子がありますが、江戸時代の寺子屋では畳の上に自分の手習い机を置き正座していました。洋式の机と椅子が使用されたのは明治になってからです。京都では明治8年に、小学校で使用される机と椅子の形式を定めました。この頃の椅子は二人掛けで、並んで先生の方を向いて腰掛け、先生は黒板の前に立つようになります。この洋式机は父兄たちに行儀が悪くなると反対されたり、また私塾に通う児童を呼び戻すために元の畳教室に戻した学校もありました。明治31年には京都市小学校創設30周年を記念して、二人掛けの机と椅子の考案を募集し、受賞した案が教育雑誌に掲載されました。その後、昭和に至るまで子どもたちの体に合わせて改良され、現在のような机になりました。



企画展 平成18年1月21日(土)~4月18日(火)

教科書のなかの女性たち

先のトリノオリンピックでの女子フィギュアスケートの金メダルが大きな話題となっています。過去にオリンピックの金メダルのことが、小学6年生道徳の副読本に教材化されている例があります。昭和39年の東京オリンピック大会で、日本の女子バレーボールチームがソ連チームを破り優勝した内容です。バレーボールチームが悲願の金メダルを獲得した時のことをテーマとした文章が取り上げられている副読本と、その時のチームのメンバーがサインしたボール(伏見板橋小学校蔵)を展示しています。

今回の企画展では、それぞれの時代の教科書や副読本に登場する女性にスポットをあて、取り上げられた女性の業績や、人柄等を紹介する展示としています。

人物が多く登場するのは、第二次世界大戦以前では、国史・修身・読本・唱歌など、戦後は国語・道徳・社会などの教科書や副読本です。

登場人物数は圧倒的に男性が多く、女性の数は少ない。それぞれの時代において立派に生きていた女性が数多く存在していたにもかかわらず、男女比が大きく異なるのは封建制度など、その時代の社会状況から影響していると考えられます。

明治から昭和前期(戦前)の教科書に登場する女性は、「○○の妻」や「○○の母」という言い方で登場していることが多く、その内容も、家族や主君に貢献した手柄や態度が女性の鑑であるとしてされています。それに対して、戦後の教科書では、その人物本人が社会に貢献した業績が記述されています。登場する女性の生き方は、どちらも人間として、それぞれ素晴らしいものがあります。

今回の企画展で取り上げた主な女性は、戦前では、京都出



身の歌人^{いはいしよつこ} 税所^{やまのうちゆずとよ} 教子^{ちゆう} や内助^{ちゆう} の功をたたえられた山内一豊の妻、「孟母三遷」で有名な孟子の母などです。

戦後では、女子教育の発展に力を発揮した津田梅子、歌人の与謝野晶子、元開智校の出身で女性として最初の文化勲章を受章した画家上村松園などです。外国の女性では、ナイチンゲール、ストウ夫人、ヘレン・ケラー、キュリー夫人、アンナ=パブロワ、レイチェル=カーソンなどで、国内外の女性合わせてその数は約30人です。

戦前と戦後を通じて登場している人物もいます。久留米^{くわもつ} 餅^{もち} を発明した井上^{いの上} でん、平安時代に活躍した紫式部、清少納言などです。

これらの女性が登場する教科書と共に、遺品や直筆の書などゆかりの品々も展示しています。

その中で、この機会にぜひご覧いただきたいのが、貧しい人々や難民を救うために生涯にわたり献身的な活動を続けた修道女マザー・テレサの貴重な写真パネルです。この写真は、京都出身の写真家^{おさむひろ} 沖守弘氏が1974年よりインドのカルカッタでマザー・テレサとその周囲の人々の活動を撮り続けた作品の一部です。子どもたちや貧しい人々に向けたテレサの温かく慈愛に満ちたまなざしがとても印象的です。今回、沖氏のご協力を得て、京都では初めての公開となる貴重な写真パネルを28枚展示しています。

企画展をできるかぎり多くの方にご覧頂き、教科書に登場する偉大な女性の生き方に触れていただければ幸いです。

なお、「触れる教科書」のコーナーを設け、大正・昭和・平成各時代の教科書約250冊を置いてあります。自分が小学校時代に使用した教科書に再会できるかもしれません。

(博物館主事：村上秀行)

平成17年度京都市学校歴史博物館実施事業

I 展示

企画展名	会期	その他
企画展「みて、きいて、楽しかった教員展」	(平成17年1月22日(土)) ～4月19日(火)	同時開催「教壇に立った 芸術家たち」展
企画展「記念の寄贈～京都市立学校の記念のために贈られた 美術工芸品～」	4月23日(土) ～7月19日(火)	
企画展「思い出の学校行事」	7月23日(土) ～10月8日(土)	
特別展「美術工芸品に観る鳥たち～京都市立学校所蔵の名品と 上村淳之～」	10月15日(土) ～平成18年1月17日(火)	
企画展「教科書のなかの女性たち～なつかしの教科書大集合～」	1月21日(土) ～4月18日(火)	

II 事業(講演会)

講演名	期日	講演者
上村淳之館長談話室	4月19日(火) 以降毎月1回開催	京都市学校歴史博物館長 上村 淳之
企画展「記念の寄贈」関連事業「中路融人氏講演会」	6月18日(土)	日本画家・日本芸術院会員 中路 融人
企画展「記念の寄贈」関連事業「西川實氏講演会」	7月 9日(土)	陶芸家・日展評議員 西川 實
企画展「思い出の学校行事」関連事業「学校行事の教育力を考える」	9月17日(土)	大阪市立大学大学院教授 矢野 裕俊
特別対談「近代日本画のあゆみ」	10月29日(土)	京都市立芸術大学名誉教授 榊原 吉郎 京都市学校歴史博物館長 上村 淳之
朝日新聞京都総局・京都朝日会・京都市教育委員会共催事業 朝日新聞日曜ひろば	11月13日(日)	京都市学校歴史博物館長 上村 淳之
特別展関連事業 上村淳之館長作品解説会	12月 4日(日)	京都市学校歴史博物館長 上村 淳之

III 市民参加・体験事業(成人対象)

教室名	期日
唱歌・童謡教室	4月11日～(全5回)
〃	5月23日～(全5回)
〃	10月17日～(全5回)
〃	1月16日～(全5回)
篆刻教室	7月 1日～(全3回)
古文書を読む(入門編)教室	9月 2日～(全3回)
〃	12月 2日～(全3回)
日本画連筆教室	9月11日～(全5回)
明治の女学校授業体験	1月26・27日
日本刺繍(京織)	1月28・29日
「書を楽しむ」教室	2月 9日～(全5回)

IV 市民参加・体験事業(児童・生徒対象)

事業名	期日
夏休み自由課題研究 「昔の学校を調べよう」(小学生)	8月1日、2日 午前・午後
子ども体験教室 「にほん画に挑戦！」	7月31日・8月7日 午前・午後
子ども工作教室 「おもちゃの手作り教室」	8月6日、27日
子ども体験教室 明治の小学校「書写教室」	8月19日
子ども工作教室 「おもちゃの手作り教室」	11月12日 2月11日

京都市学校歴史博物館

〒600-8044 京都市下京区御幸町通仏光寺下る横町437
TEL:075-344-1305 FAX:075-344-1327 E-mail:gaku111@oak.con.ne.jp
http://www.gakuhaku.uniet.ocn.ne.jp

- 観覧料:大人200円 子ども(小・中・高)100円
(20名以上の団体:大人180円 子ども80円)
※京都市内の小・中学生は土・日は無料
- 開館時間:9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日:水曜日(休日の場合は翌日)
12月28日～1月4日



交通 ACCESS

- 阪急電車「河原町」駅下車 南西へ歩5分
- 地下鉄/丸太線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
- 市バス「四条河原町」駅下車 河原町通より西へ二丁目(御幸町通)より南へ歩5分